

niconico societ

～Reports of Life from Matsuyama vol 4～

みなさま、こんにちは。美しい新緑の季節を楽しんでいますか？ 4月から新生活をスタートさせた方も多いのかもしれませんが。慌ただしく過ごす中でも、身の回りをきれいに整えることはとても大切なことだと思います。今回のレポートでは、モノの手入れやお掃除について私なりに考えてみたいと思います。



少し前に、お鍋を磨きました。ピカピカに光る鍋は気持ちよく、使っているときはもちろん、磨いていると鍋がクリアになっていく様子が嬉しいものです。そして、磨いている間には、瞑想的な時間が流れます。鍋はステンレス焼けが気になるので、専用のクレンザーを使っています。また、グラスも先日、時間のある時に久しぶりに磨きました。磨く行為は気持ちが良いですね。



掃除は瞑想

～「自分を疑ける」P170～



掃除道具にこだわってみると、掃除がしやすいというのはもちろん、楽しい気分でお掃除ができるかもしれません。写真の右上のブラシは網戸ブラシ。網戸の間の埃がひと掃きできれいに落ちます。左上は、それぞれ、埃叩きや卓上の箒、ざるやお鍋を洗うのに便利な棕櫚のたわしです。

REDECKERなど海外のものもあれば、日本の職人さんの手作りのものも。

また、髪の毛が目につき汚れやすい洗面台にはコロコロを置いていて、気になった時にすぐに掃除ができるようにしています。立ったままできるように、長い枝をつけているのが小さな私の工夫です（右下）。さらに、時間がある時には、古い布などを切ってウエスを作っておきます。このような容器に入れて、目線より少し高いところに置いておけば、中が気にならずに収納でき、汚れが気になった時はさっと拭いてあとは捨てるだけです。

砥部焼

砥部焼をご存知でしょうか？

砥部焼は松山市のお隣、砥部町で作られており、約240年の歴史を持つ伝統的な焼き物 陶器です。

白地に藍色の呉須が特徴で、大胆な唐草模様が代表的ですが、今ではたくさんの絵柄のものがあります。そして、とても丈夫なことも特徴の1つ。「用の美」という言葉がぴったりの器たちです。



私が所有している砥部焼の一部。唐草模様のものはありませんでした・・・

編集後記：

毎日、気持ちよく過ごすためには、掃除は大切な行為だと思っています。

基本的に、自宅で仕事をしている私は、時間を決めて、仕事の間にちょこちょこと掃除をしています。10分間と決めてパツと掃除をして、「時間が来たら終わり」。そんな風に掃除をしています。加藤えみ子先生の「自分を疑ける」を読んで、掃除は瞑想の効果があると気がつきました。掃除は、心が整い、そして空間が綺麗になるというわかりやすい効果も得られて嬉しいことだらけですね^^。また、夏頃にレポートをお届けします。廣瀬麻衣